
タイトルが一文字 其の弐「墓」

喜多河 済

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイトルが一字 其の弐「墓」

【Nコード】

N3113K

【作者名】

喜多河 済

【あらすじ】

墓。その恐怖。荒筋はどうも苦手なので割愛させていただこうと思いますが、一つだけ言わせて頂くと、ただ単に怖い話ではないはずです。あなたも…。

「墓」

ある山奥に、ひっそりとした寺が建っていた。どこの寺にも共通していそうな、どことなく漂う暗さ。寺への参拝者はあまりいなくなっていた。住職もそのせいかやる気を失くし、さらにそれによって参拝者は少なくなる一方であった。

このような寺でも昔はなかなか人気のある、地方の名所だったのだ。それが、今ではこのありさま。そこにはある逸話が関係していた。

百年ほども昔ではない、わりと最近の話。一人の若者がこの山をさ迷い歩いた末、その寺にたどりついたという。その若者はだれかがいないかを確認かめようと裏へまわった。探索に来ていたその若者は、寺の表札を見るでもして名所だと分かり、安心したからだろう。しかし、裏に回ってその光景を見た若者は腰を抜かし、挙句には気絶をしてしまったという。なぜなら、その若者が寺の裏で見たのは、数人の僧が墓を掘り返して死体を食べていたかららしい。その時は、やはりさすがにだれも信じることはなかった。だが……。

いまだにその寺は以前のように栄えることがない。しかし、寺はいつまでもなくならないだろう。それはその寺を恐れて、寺を破壊するものがないから。だが、よく考えるとおかしい事がある。それはわずかでも寺への参拝者がいること……。その参拝者はみな、一人暮らしの老人に限る。そのため、村の者からは恐れられている。いったい何をしているのか……。

都会。その郊外に割合高いビルが一つ建っていた。その中ほどの階に、若い女性が一人住んでいる。

「あら、なにかしら」娘はつぶやき、窓に張り付いたそれを見ようと、窓に近寄る。

「手紙だわ……」

娘があげると、その紙は部屋の中に入り込んできた。風が強かったのだ。娘は窓を閉め、紙を拾う。

「なにかしら」

娘が開いたとたん、娘は苦痛に苛まれ、容姿は若いそれから老人のものとなった。

「わあ、たすけて……」

娘は一人暮らしたため、助けも呼べない。そして、ここは高いビル。下に降りることも難しく、みなはその悲鳴に気付きすらないだろう。

老人となった娘は部屋を出、どこかへと歩いて行った。近所の者はその人物を始めてみるため、疑問に思いながらも不気味がる。

風が強い日。それは、一か月に一度くらいはあるだろう。あなたは好奇心がお強い。ましてや、窓に張り付いた謎の手紙なんぞ、すぐに開いてしまうだろう。そして……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3113k/>

タイトルが一文字 其の式「墓」

2011年10月6日19時51分発行